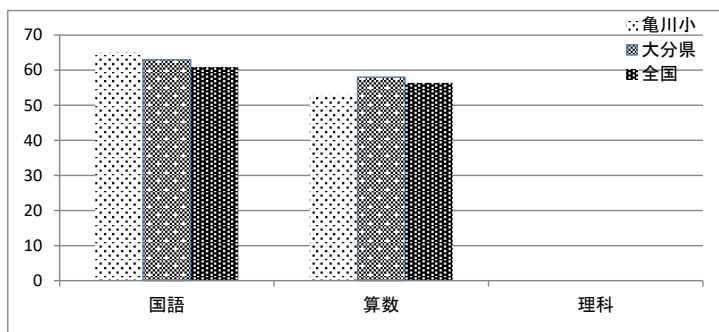


令和8年度 全国学力・学習状況調査結果(6年生)4月実施

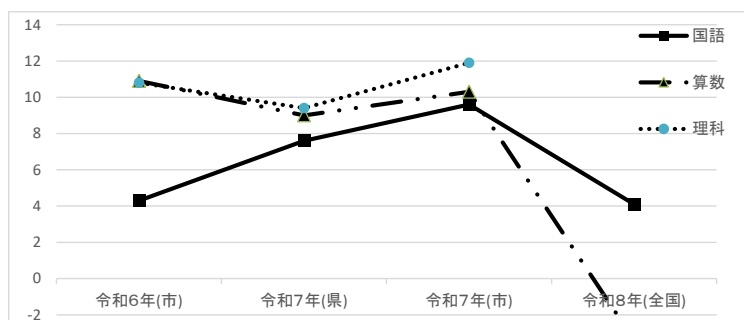
平均正答率	国語	算数	理科	
亀川小	65	53		
大分県	63	58		
全国	60.9	56.4		差の平均値
全国との差	4.1	-3.4	0	0.35



《正答率の経年変化》…全国平均との差(同一児童)

亀川小	国語	算数	理科
令和6年(市)	4.3	10.9	10.8
令和7年(県)	7.6	9	9.4
令和7年(市)	9.6	10.3	11.9
令和8年(全国)	4.1	-3.4	

別府市学力調査(1月)4年生
大分県学力・状況調査 5年生
別府市学力調査(1月)5年生
全国学力状況調査(4月)6年生



国語は全国平均値を上回った。問題の正答率でもほぼ全てが全国平均値を上回った。特に「文章を読んで考えたことを、自分の経験と結びつけてまとめを書く」ことは10ポイント以上上回った。文章の大体を読み取ったり、自分の考えと結びつけて文章を書いたりする力が定着していると言えそうである。しかし、説明文においては、全国平均値を下回った問題や同等の問題があった。「文章全体の構成や展開」「考えとそれを支える理由や事例」「目的に応じた情報」を選択する内容である。文章の構成の仕方や、段落同士のつながりの理解が不十分である

算数は全国平均値を下回った。正答率で全国平均値を10ポイント以上下回った問題は5つで、「直方体を構成している面についての理解」「体積の意味」「概数の表し方」「単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味」を問われるものであった。他の問題に関しても基礎的な内容を正しく理解しているかを問う問題が多かった。この結果から、算数に関しては知識理解の定着が不十分であると言える。